



## 企業から NPO 等への人材交流

～ パナソニック株式会社「Panasonic NPO サポートプロボノプログラム」の取組 ～

### 経緯

パナソニック株式会社（以下、「パナソニック」）は、2001 年より NPO 等の組織基盤強化を応援する助成プログラム「Panasonic NPO サポートファンド」を立ち上げて、NPO や NGO 等を支援している。また、社員一人ひとりのボランティア活動も積極的に応援していて、かねてより助成先 NPO 等と社員の関わりを強くして、社会課題の解決促進に貢献したいとの思いがあり、従来にはない新たなボランティアプログラムを模索していた。そうしたところ、企業人が会社で培ったスキルを活かし、チームで NPO 等の運営を支援する社会貢献活動である「プロボノ」が NPO 法人サービスグラント（以下、「サービスグラント」）により実施されていたことから、2011 年にサービスグラントと協働で、「Panasonic NPO サポートプロボノプログラム」を導入するに至ったとのこと。

### プロボノの概要

プログラム実施にあたってはサービスグラントのスキームを活用しており、プロボノの社内説明会に参加して興味を持った社員等が、自発的にサービスグラントにプロボノワーカーとしてスキル登録して活動している。2014 年 10 月現在 115 名が登録し、延べ 99 名がプロボノワーカーとして活躍している。

基本的には、1 人ではなく社員 4～6 人でチームを組み、通常の情報共有等はメールで実施するとともに、ミーティングを月に 1 回程度行いながら、約 6 ヶ月にわたって週末等を活用して週 5 時間程度のプロボノ活動を行い、最終的な成果物を支援先の団体に納入してプロジェクトを終了する形になっている。プロボノによる支援内容としては、日頃の経験を活かして、NPO 法人の中期計画の策定、ウェブサイト再構築、営業資料作成、マーケティング基礎調査などを行った実績がある。支援先の団体は、「Panasonic NPO サポートファンド」で過去に支援した団体を中心となっており、これまでに 16 団体を支援した。

パナソニックとしては、社内説明会の開催によってプロボノの自発的な登録者数を増やすとともに、成果レポート等の社内外へのインターネット配信、サービスグラントと共催でのフォーラム開催などによって、自社の取組や成果を通じてプロボノの意義や価値、可能性を広く社会に発信しているとのこと。

## 効果

プロボノに参加した社員からは、社会課題への気づきや支援した団体のスタッフの想いに刺激を受けた、NPO 等を取り巻くステークホルダーへのインタビューなどを行うことにより多様な人と接しコミュニケーション能力が向上した、チームを組むことによる社内の人的ネットワーク構築や仲間意識の強化につながった、パナソニック社員としての自覚が強くなったといった感想があり、参加した社員のそれぞれが新たな学びを得ることができているとのこと。また、パナソニックにおいて本業でイノベーションを生み出すためには、社員のイノベーションマインド醸成が必要であるが、NPO 等の活動といった社会課題解決の現場に触れることで、そうしたマインドが形成され、新たな事業開発につながる可能性も秘めているとのこと。さらに、社会課題の解決に取り組む NPO 等を支援することによって、企業として市民活動の持続的な発展や社会の変革に貢献できる効果もあるとのこと。

一方、支援を受けた NPO 等にとっては、自分たちの活動に客観的な視点が加わることや、様々なスキルや経験を持つプロボノワーカーと一緒に活動したり議論を行うことを通じて、自身の活動を見つめ直す良い機会になったり、プロボノ支援が終わった後にも、彼らから学び取ったノウハウを組織として活用できているといった効果が出ている。またプロボノに参加した社員が、その後も支援先に会員やボランティアとして継続的に関わるなど、プロジェクト終了後も関係が続いているケースが多いとのこと。

### （プロボノに参加した社員の声）

○ A 氏（40 代男性）：会社に入社して 20 年強になり、自分の力が会社以外で通用するのか、他で役立つことができるのかを試してみたいという思いがありました。直接のきっかけは、会社で開催された「プロボノ説明会」に参加したことです。プロボノの活動内容としては、事業計画立案プロジェクトチームのマネージャーとしてチーム全体のまとめ役、NPO 法人との窓口、プロジェクトの進行管理を担当しました。チームメンバー 6 人は同じ会社でも初対面で、いろいろな価値観、意見をぶつけあいながらプロジェクトを進めてきました。NPO 法人の皆さんが社会課題に真摯に向き合う姿が印象的で、自分自身、せつかくの活動をもっと広げられないか、さらに成果を出せないか、そのために自分に何ができるのかを常に考えさせられました。

プロジェクトが終わった後も、NPO 法人の寄附管理システムの構築など、引き続き別の形で応援しています。

プロボノを一言で表すと「宝の山」です。NPO 法人の活動、スタッフの想い、いろいろな経験、多様な人とのつながりなど、今まで見えていなかったことをたくさん見ることができました。

○ B 氏（40 代女性）：普段は家と会社の往復ばかりで、会社以外の世界を知りたくて参加しました。プロボノでは、ビジネスアナリストという役割で、NPO 法人の内部スタッフやボランティア、法人を取り巻くステークホルダーにヒアリングをして、この団体がどういう団体で、どういう思いで活動をしているのか、周囲からどんな期待があるのかといった、今後支援先の NPO 法人が一層発展していくためのベースとなる情報を客観的に整理しました。会社の仕事のプロジェクトが一つ増えた感じで、自分自身のスキルの棚卸しにもなり、経験して非常に良かったです。思いがけず、NPO 法人の皆さんから感謝の言葉をいただき、自分がお役に立てたのだという実感が得られ、これまで会社で頑張ってきて良かったと思いました。



(プロボノの支援を受けた NPO 法人の声)

長年にわたりがむしゃらに活動をする中で、自分たちの進んでいる方向が客観的に見て間違っていないかどうかを教えてもらいたくて、プロボノをお願いしました。事業計画の立案をお願いし、最終的には会員をいかに増やしていくのかという課題に対して、具体的なアイデア、アドバイスをたくさんもらい、それらをどのように事業計画に落とし込んでいくかを一緒に考えてもらいました。これまでは学生ボランティアを中心に運営をしてきましたが、プロボノをきっかけに社会人ボランティアのグループも立ち上げ、精力的に活動していただいています。

人も一人でできることには限界があり、いろいろな人と出会い、刺激を受けながら成長します。組織も同じように、プロボノを通じて外からの刺激を受けて、はじめて次のステップに進めるということを実感し、組織の成長につながりました。

### パナソニック株式会社

所在地（本社）	大阪府門真市大字門真 1006 番地
URL	<a href="http://panasonic.co.jp/index3.html">http://panasonic.co.jp/index3.html</a>